

クマのため、人のため 互いが出合わないよう に私たちができること



「緩衝帯」を整備する

かつて、クマが住む山奥と、人が生活する住宅地の間には、適度に手入れされた田畑などが広がる「里山」の風景が見られました。音に敏感で警戒心の強いクマは、餌を求めて山から下りてきても、里山で人間の気配を感じ、その先まで入ってくることはあまりありませんでした。

しかし、過疎化などの影響で里山の手入れが行き届かなくなると、これまでの「緩衝帯」がなくなり、クマの生息域と人間の生活圏が近くなってきました。

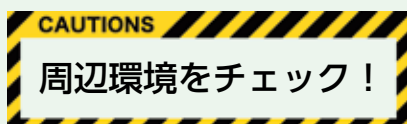
耕作放棄地はクマをはじめとした野生動物にとって絶好の隠れ家、えさ場になります。また、山ではなく人家の近くで生まれ育った動物は、そこを中心に活動し、結果として人間との距離が近くなるとも言われます。

間伐や刈り払いによって、クマが住みにくい、近づきにくい環境を整備・維持することで、かつての距離に戻す努力をすることが重要です。

クマと出合わないために

目撃情報は随時、市の防災無線やメールなどで配信しています。情報やクマの痕跡があった場所には近づかないようにしましょう。クマの生息地に入る場合は、クマ鈴やラジオなど音が出るものを携帯し、自分の存在を知らせましょう。

もし出合っても大声を出したり走ったりせず、落ち着いてゆっくりクマから目を離さないで下がきましょう。子グマの近くには必ず母グマもいるので、特に注意が必要です。



クマは嗅覚がとても優れています。生ごみを屋外に放置したり、指定日以外に出しておくと、カラスなどがあさり、ほかの鳥獣をおびき寄せることになります。

クマは一度餌があることを覚えると、毎年やってきます。私たちの生活圏に近づけないため、周辺環境の適正な管理をお願いします。



カキ、ビワ、クリなどの果実はクマの好物です。適宜収穫するなど所有者が管理し、放置している場合は、きちんと伐採しましょう。



ミツバチを飼育する場合、毎年県に飼育届を出す必要があります。また、蜂蜜はクマの好物でもあるので、住宅地周辺での飼育は控えてください。